

日本人から学ぶ 10 のこと

附記：ベトナムからの一報

のっけから言い訳になる。ボクは新聞を購読していない。朝日新聞などまず、余程に活字に飢えたとき以外には見もしない。ニュースソースは、もっぱらテレビか週刊誌である。朝日新聞など、「あまりにも偏向が強いから」と断る。新聞屋のおじさんが、「うちに何かありましたか？」とすっ飛んでくる。「いや、お宅には問題はないねんけど、あまりにも偏向が強いから。……」「そうですかあ。今はそんなことはないと思うんですが……」「……では昔はあったんだね？」これほど自虐史観に洗脳されている新聞も珍しい。多少の後ろめたさがあれば、いくらなんでもここまでは書かないだろう、とまともな人なら思うだろうに、デッチ上げても叩こうとする。たとえば FUKUSIMA Fifty など世界中が称賛している。原発事故も日本でよかった、これが他の国、たとえばチェルノブイリなどであったら、どうなっていたらろう？

それほど、職員は命懸けで事故処理をしているのに、片言隻句を確かめもせず、大々的に貶めようとする。そして、しばらくしてから、小さく謝罪ですまそうとする。もともと取材能力に欠けているのに、「天下の朝日が書いているんだ」などとしらばくれる。ではサンケイ新聞はどうか、というと、朝日よりはまし、というより、反朝日を標榜しているが、ときどき提灯記事を書いたり、真っ先に名前を書くべきところを書かない。「取材協力してくれた」という名目で、「名刺代わりです」と名前は伏せる。

だから新聞は信用できない。

週刊誌は、まともな記事は少ないが、ずっと追いかけるから、事の顛末がまだわかりやすい。内容はともかく。……だから最近、数ページ読んだら終わりということがよくある。どころか、しょっちゅうやけど。

最近、YOU-TUBE に凝っているから、相変わらず中卒、高卒は底辺などとやっている。ときどき、あれっと思うことが動画になっていて多くの人が目を通して。以下のことについては、だから全く知らなかった。津波の動画は、当時インターネットで繰り返し見たはずなのに。……実は、この話については、まったく知らなかった。

2011年3月11日、未曾有の大地震と津波のために、三陸海岸から福島、茨城にかけて大きな被害がでた。この重大さは、福島原子力発電所が、津波のためメルトダウンしたことであるが、三陸海岸の津波の被害が大きく、2万人に及ぶ死者行方不明者がでた。阪神大震災で懲りているから、自衛隊は地震発生と同時に出動した。そして隊員数よりも多い一般人の数を救出した。これは特筆ものである。

以下のことは、元世界銀行副総裁西水美恵子さんが2013年に新聞に寄稿したものと言われている。このニュースは、2011年の3月には世界中を駆け巡っていたらしい。

日本人から学ぶ10のこと

1. The Calm (平静)

Not a single visual of chest-beating or wild grief.

Sorrow itself has been elevated.

悲痛に胸を打つ姿や、悲嘆に取り乱す姿など、見当たらない。

2. The Dignity (威厳)

Disciplined queues for water and groceries.

Not a rough word or a crude gesture.

水と食料の配給を整然と待つ人々。

そこには声を荒げる人、粗野な行動を取る人間はいない。

3. The Ability (能力)

The incredible architects, for instance.

Buildings swayed but didn't fall.

たとえば驚くべき建築家たち。ビルは揺れたが、崩れなかった。

4. The Grace (品格)

People bought only what they needed for the present, so everybody could get something.

人々は、全員の手に渡るようにと、それぞれが自分に必要なものだけ買った。

5. The Order (秩序)

No looting in shops.

No honking and no overtaking on the roads. Just understanding.

店舗では、掠奪が起こらない。路上では、無謀な追い越しもクラクションを鳴らす車もない。思慮分別のみがある。

6. The Sacrifice (犠牲)

Fifty workers stayed back to pump sea water in the N-reactors.

How will they ever repaid?

原子炉に海水を注入するべく、50人の作業員が原発に留まった。

彼らにこの恩を、どう返せばいいのだろうか？

7. Tenderness (優しさ)

Restaurants cut prices.

An unguarded ATM is left alone.

The strong cared for the weak.

レストランは値下げをし、警備されていないATMに手を出す者もいない。

強い立場の者は、弱い立場の者を気遣っていた。

8. The Training (訓練)

The old and the children, everyone knew exactly what to do, and they did just reportage.

老人も子供も、すべての人が何をすべきか知っていた。

そして彼らは、淡々とすべきことをした。

9. The Media (報道)

They showed magnificent restraint in the bulletins.

No silly reporters. Only calm reportage

崇高な節度を保つ速報。

メディアは見事な自制を見せた。

愚かな記者やキャスターなどいない。

平静なルポのみがある。

10. The Conscience (良心)

When the power went off in a store, people put things back on the shelves and left quietly.

停電になった時、レジに並んでいた人々は、

品物を棚に戻して静かに店を出た。

気恥ずかしくなるような話であるが、ここまで褒められたらやっぱり嬉しい。実際には、どこの世界にもいるような卑劣な連中はいた。こういうのをクズという。

たとえば、家人が避難している家は空き家である。そこに侵入して金目のものを盗んでいくような連中はいる。……(つい最近、能登半島沖地震で、実際に捕まった男女がいる。日本人かどうかわからないが)

報道も、朝日新聞のようなバカもいて、Fukushima fifty を貶めようと企む。卑劣漢としか言いようがない。

しかし、大多数の日本人は、上記 1~10 のような行動をとっていた。

日本人として、もっと胸を張ってもいいと思う。

かつて、アメリカ人記者だったかが、阪神大震災の時、「日本人がコンビニから掠奪しないはずがない」と、その証拠を探しに来て、その現場を見た。「見ろ！やはり掠奪しているではないか！」……傍らにいた穏やかな紳士が、「かれらは日本人じゃないですよ」

2024.03.08.

在日ベトナム人の息子さんが、警察官を志した。東日本大震災に際して、全国から警察官が召集される。治安維持のためである。地震から数日後、食料配布の長蛇の列の最後尾に少年が並んでいる。東北の3月中旬といえば、西日本では真冬と同じだ。この時期に半袖、半ズボンである。警察官は訝しく思ったのだろう、警戒する少年に、自分のコートをかけて、重い口を開かせた。・・・この9歳の男の子は、地震発生時体育の授業中だった。父親が救助に来てくれたが、車ごと津波に呑み込まれた。母親や妹は、海岸沿いに住んでいる。(彼は諦めていた。)警察官は、自分が持っていた食糧を少年に渡した。すぐに食べるものと思っていたら、少年は、食料を積んでいた場所にこの弁当を持って行き、再び最後尾に並んだ。「ボクは今日、一食たべたから、あの弁当が何も食べていない人にあたればいいのに」と恬淡としている。警察官は、涙をこらえるのに苦労したそうだ。

ベトナム人警官は、たまらず友人に話した。すると、この友人が新聞記者に話した。そして記事になり、世界中を駆け巡った。

・・・実のところ、この少年(小学校3年生だろうか)のような態度をとれるかどうか、自信がない。10年前ネパールへ旅行したとき、学校の教師たちの自分さえよければ、という行動をいやというほど見てきた。

まともな躰を受けてきた日本人には当然の行動だった。他人を思いやるこの少年の心を理解できるほどの人が教育しているのだろうか。